



スタート

鎌倉街道 Picup!

東条原から須賀にかけて、鎌倉街道が残っています。特に東条原地区には南端と北端にクランクなども残り、鎌倉・室町時代の集落(宿場)の様子がわかります。



vol.4 “須賀の歴史を探る”コース

6 大聖院跡 (だいしょういうんあと)

新義真言宗智山派のお寺で、百間の西光院の末寺。明王山と称し、不動明王を祀りました。大聖院は明治6年廃寺となり、その後須賀小学校の前身である桑原小学校の校舎として利用されました。その後小学校は大正5年、現在の須賀小学校の場所に移転しました。



7 東条原鷲宮神社 (ひがしくめはらわしみやじんじゃ)

旧東条原村の鎮守で、祭神は天穂日命(あめのほひのみこと)を祀ります。江戸時代の延享2年(1745)から伝わる獅子舞があります。男獅子、女獅子、中獅子の3頭の獅子を中心に、ヒョットコ3人などが笛や太鼓に合わせて舞う舞は梵天、花、弓など8通りからなる優雅なものです。



8 真蔵院 (しんぞういん)



新義真言宗智山派の寺で医王山大福寺と号する真蔵院は、仁治年中(1240~43)の草創と伝えられる「身代り薬師」という薬師如来を祀ったお堂があります。仁王門は町内唯一のもので江戸時代中頃の建造と推定されています。

9 金剛寺 (こんごうじ)

曹洞宗のお寺でかつては白岡市にある興善寺の末寺でした。開山の存清は文亀元年(1501)没と伝えられています。大慈山と称し、本尊には十一面観音を祀ります。室町時代後期の創立と伝えられ、付近からは板碑(いたび)と呼ばれる中世の塔婆(とうば)も発見されています。



10 日本工業大学・工業技術博物館



明治40年(1907)、東京工科大学として創立し、昭和42年(1967)新制大学として設立されました。日本工業大学のキャンパス内に開設された博物館は、我が国産業の発展に貢献した機械・機器・資料等を技術史的に整理して保存・展示。展示工作機械の70%は動態保存であり、明治末期から昭和中期まで実稼働していた機械加工の町工場も復元。明治24年(1891)にイギリスで製造されたSLも動態保存されています。



11 身代神社 (このしろじんじゃ)

須賀村の鎮守であったことから、昭和30年(1955)の百間村との合併の際、身代の『代』をとり現町名の一部としました。祭神は素戔鳴尊(すさのおのみこと)を主神とし、他16柱の神々を合わせて祀っています。再興は天和2年(1682)。境内には江戸時代の庚申塔50基余りがあります。拝殿に向かって左側にある身代池には、「おいてけ堀伝説」が伝わっています。



12 進修館 (しんしゅうかん)

進修館は、町民が集い、創造する場として親しまれ、様々なコミュニティ活動の拠点となっています。「大ホール」など大小8つのスペースがあり、様々な活動に利用されています。そのユニークな外観から、町のランドマークとして広く親しまれています。進修館の名称は、百間小学校の前身である「進修学校」の名前にちなんで名付けられました。

